

## 「たゆまぬ努力を続ける」

本山単頭 柴田康裕

今年の干支は寅（<sup>とら</sup>虎）ですが、虎と言えは、一休さん（<sup>いっきゅう</sup>）にこんなお話がございます。

ある時、將軍様（<sup>いっぶく</sup>）が一幅（<sup>びょうぶ</sup>）の屏風を指さして、一休さんに言いました。

「この屏風（<sup>か</sup>）に描かれている虎が、毎晩のように中から飛び出してきては暴れまわるので、ひとつ捕らえてみてはくれまいか。」

すると一休さんは縄をもってきてこう言いました。

「將軍様、その虎をこちらの方に追い出してはくれませんか。」

將軍様は言いました。

「絵にかいた虎をどうやって追い出すというのか。」

そこで一休さんは言いました。

「追い出すこともできないような虎が、どうして毎晩のように暴れたりできまじょうや。」

皆さんは、今年どんな目標をお立てになったでしょうか。今まではできなかったけれども、今年こそはと心に決めていることもあろうかと思えます。

しかし、せっかく目標を立てても、そのまま何もしないというのであれば、それは先ほどの絵にかいた虎と一緒に、何の役にも立ちません。その目標に向かって、実際（<sup>かい</sup>）に取り組み励んでこそ、初めてその甲斐（<sup>かい</sup>）があるというものです。

仏教では、自分の立てた目標を誓願（<sup>せいがん</sup>）と言います。そして、その誓願（<sup>せいがん</sup>）に向かって、勤め励む（<sup>しょうじん</sup>）ことを精進と言います。

お釈迦さまは、

「水も一滴一滴（<sup>したた</sup>）り落ちれば、やがてはその下にある石をも貫（<sup>つらぬ</sup>）いてしまうほどの力になる。そのように、毎日勤め励むことを怠（<sup>おそ</sup>）ってはならない。」

とおっしゃっておられます。

ただし、仏教では、その誓願を達成できるかどうかという、結果についてはあまり問題視しません。その誓願に向かって、毎日少しずつでも勤め励むことこそ、大切な意義があるのです。むしろ、永遠に達成できない目標に向かって歩み続けていくことが、まさしく誓願というものなのです。

年が明けたと思ったら、もう二月に入りました。私たちもまた、今年立てた目標を、決して絵にかいた虎に終わらせることのないよう、たゆまぬ努力を続けてまいりたいと思えます。